

平成 27 年 5 月 28 日

1. 開催日時：平成 27 年 5 月 28 日（木） 14 時 30 分～15 時 50 分
2. 会 場：熱海市役所第 3 庁舎第 1～3 会議室
3. 出席者：【構成員】 市長[議長]・教育長・原委員・水野委員・若井委員・木田委員
【関係者】 副市長・経営企画部長・健康福祉部長
【事務局】 企画財政課長・学校教育課長
4. 議 事：①教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱策定について
②今後のスケジュールについて
5. 審議結果：①大綱の策定については、今年度見直す教育振興基本計画に基づき策定
→事務局提案のとおり、全委員承認。
②今年度の会議開催回数 3 回（第 2 回 9 月中旬～上旬。第 3 回 11 月上旬）
→事務局提案のとおり、全委員承認。
6. 議事要旨：以下のとおり。

1. 開 会

2. 市長あいさつ

- ・教育委員の皆様、日頃より当市の子ども達の教育の充実と発展に大変なご尽力を賜り心から感謝申し上げます。
- ・これまで教育と行政には一定の距離があったと私は感じております。教育は教育委員会、行政は市長部局でありましたが、今回の法律の改正により、教育と行政がより一体化して子供たちの課題に取り組めるようになったと感じております。
- ・子どもたちの問題は教育だけでなく、福祉・産業の観点から取り組むことが重要だと思っています。
- ・本市においても、教育委員の皆様と自由に意見交換をしながら、お互いに意思疎通を図り、本市教育の課題やあるべき姿を共有し、教育の更なる振興を図るため議論を進めて参りたい。
- ・本会議では次の 3 点について議論をしていく。
 - ① 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱の策定
 - ② 教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策
 - ③ 児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置
- ・年内には大綱を策定したいと考えており、本日は、大綱の策定に向けての方向性やスケジュールについて決定したいと思っておりますので、皆様の活発な討議をお願いいたします。

3. 教育長あいさつ

- ・ 4月より「新教育長」として任命されました。
- ・ 新教育委員会制度において次の点により、従前よりも重責を感じている。
 - 教育長と委員長を兼ねること。
 - 議会の同意を得て市長から任命されること。
- ・ 一方、教育・行政面でスピーディに対応できる体制が整った。
- ・ 総合教育会議が良い方向に進めるよう皆様と議論していきたいと思っております。

4. 連絡・報告事項

- ①教育委員会制度の改革について
事務局より、資料①に基づき説明。
- ②総合教育会議の運営について
事務局より、資料②に基づき説明。

5. 協議事項

- ①教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱策定について
事務局より次の3点に基づき、「今年度見直しをする教育振興基本計画に基づき大綱を策定する（案）」を提案。
 - a.教育振興基本計画を定めている場合には、その中の目標や施策の根本となる方針の部分が、大綱に該当すると位置づけることができるものであり、首長が教育委員会と協議し、当該計画をもって大綱に代えることができることと判断した場合には、大綱の策定が必要ないこと。
 - b.大綱と教育振興基本計画が大きく異なる場合には、大綱に即して教育振興基本計画を変更することが望ましいこと。
 - c.教育振興基本計画の見直し時期と大綱策定期が同時期であること。

⇒事務局提案のとおり、承認可決。

②今後のスケジュールについて

事務局より資料③及び資料④に基づき、下記のとおり提案をした。

- ・ 今年度策定する総合計画後期基本計画等の各種計画と整合性を図りながら大綱の策定をしていきたい
- ・ 今年度の総合教育会議のスケジュール
 - 第2回（平成27年9月中旬～10月上旬）
 - a.教育振興基本計画見直し素案について
 - b.平成28年度予算の方向や重点事業について
 - 第3回（平成27年11月上旬）
 - a.教育振興基本計画最終案の確認及び大綱案の確認、決定
 - b.平成28年度予算について状況報告

c.来年度の会議の実施回数、内容の確認

⇒事務局提案のとおり、承認可決。

6. 意見交換

(水野委員)

- ・教職員の多忙化を解消し、子どもと向き合える時間を確保できるようにしてほしい
- ・フィンランドの教育は、一人一人生徒に向き合い、子どもの学力を確実に伸ばしていくための生徒学習サポートがある。先生がもっと生徒と関わられるようにしてもらいたい。
- ・部活動については、保護者や地域の力をもっと借りていただきたい。

(市長)

- ・子ども達の落ちこぼしを無くすことは、大事なことであると思います。
- ・学習支援員を配置することを積極的に行っていますが、教職員の数が足りないことが課題だと思っています。人口規模の小さい自治体にとっては大きな課題です。県市長会→東海市長会→全国市長会を通じて、教職員の数を確保して欲しい旨要望しております。

(教育長)

- ・少しでも先生方が子どもと向き合う時間をとりたいと考えたときに、校務支援システムが導入されれば、書類関係の仕事が速やかに出来ることによって先生方が、子どもたちと向き合える時間を作れるので、研究をしていきたいと思っています。

(若井委員)

- ・勉強でもスポーツでも何か輝けるものがある子どもは、生き生きと学校生活を送っている。
- ・泉では、陸上部がなくても地域や先生方の支援で陸上大会において、県上位に入賞している子もいる。また、学校にナイター照明がないため自家用車のライトで練習していたと聞いている。
- ・部活動の外部指導員や場所の提供など地域で支援できるようなサポートシステムを構築してもらいたい
- ・ニュース等で児童生徒の列に車が衝突するなど通学路の安全確保については、最優先に考えていかなければならない。
- ・伊豆山小の通学路、泉の桜の木など子どもの安全について検討の必要がある。

(市長)

- ・平成27年度から「住まうまち熱海づくり」ということで、教育に限らず市民生活に関わる施設修繕に力を入れていこうと予算を厚くしております。
- ・子どもたちが運動や勉強で活躍できる可能性を増やす努力はこの4年間力を入れたい。

(教育長)

- ・恵まれない環境ではありますが、学校や地域の応援で子ども達の可能性を伸ばしているの

は、非常にありがたい。

・通学路については、危険な箇所があると、現場を確認し、関係する部署とも協議し、色々な方策をとっています。

(木田委員)

- ・言語障害だけでなく、発達が気になる子どもの相談件数が増加している。専門職員の配置、児童発達支援センターの整備が求められている。
- ・小さいときに支援が必要な子に十分な支援が出来なく、中学生になるにつれて手がかかる例もある。少しでも早く、就学前から支援できるような体制を整えていただきたい。
- ・幼稚園・小中学校の適正規模適正配置計画が策定されているが、最初から統合ありきではなく、一つ一つ精査して統合の必要性を精査して欲しい。
- ・統合後の後施設の活用についてもセットで考える必要がある。

(市長)

- ・先日、教育長と共に近隣の市にある児童発達支援センターに視察に行き参りました。少しでも発達の遅れがある子は少しでも早く対応すれば短い期間で改善できるとお話がありました。児童発達支援の機能を出来るだけ早く対応できるように考えています。

(教育長)

- ・軽度の学習障害で学校に通っている子が増えているのは事実で、今後それをケアするために特別支援員の増員を図っていくことが必要になりますが、できるだけ早い時点で専門家にケアできるかを検討していきたい。そのようなことから、早期に児童発達支援センターを立ち上げる必要があると思います。
- ・平成22年に策定した学校施設の適正規模・適正配置計画について、方向性、指針を示させていただいていますが、子供の数の減少だけに注目した統廃合は行うべきではないと考えています。
- ・児童、生徒にとって熱海市の教育としてどうかという点を重視して、施設についてただ廃止するのではなく、活用の考えもセットで検討していきたいと思います。

(原委員)

- ・待機児童は年度当初ゼロとなっているが、実際は希望する保育園に入れられない人もいて、年度途中には数十人入れられないという状況だと聞いている。入園希望者が入れるように考えていく必要がある。
- ・園舎・校舎などの施設について老朽化が進んでいる。長期的に見るとメンテナンスしないほうが逆に費用がかかることもあると思うので、計画的進めてもらいたい。
- ・熱海市で塾に通っている生徒割合は、中学3年生で51.9%（H26）となっている。塾にいけない子どものフォローを考えていく必要がある。
- ・図書館は、地域のバロメーターである。図書の実態に力を入れて欲しい。

(市長)

- ・待機児童の問題ですが、保育士の確保が非常に難しい。保育士が首都圏に一極集中になっ

ている。首都圏では待遇面での競争になっている。

- ・県の市長会でも発言をしていますが、連合を組んで基礎自治体が保育士の確保に取り組まなければならない状態になっている。伊豆半島の首長とは、意思疎通を図り保育士の確保に向けて努力していきたい。
- ・今年度から、スプリンクラー修理やクーラーを設置など施設の老朽化のみならず学習環境の改善にも予算の配分をして参りたい。

(教育長)

- ・平成26年度に実施した公民館寺子屋事業が好評で、今年度は会場、実施日数、学年、募集人数を拡充しました。
- ・今年度新規事業として小学校6年生と中学校3年生を対象に土曜日学習支援を実施しました。今後土曜日学習支援事業が好評であれば、寺子屋事業と同様来年度拡充を検討していきたい。
- ・熱海市では幼児に本を贈るブックスタート事業に取り組んでいます。
- ・皆さんに協力いただく中で、図書館100周年記念事業ができればいいなと思います。

(副市長)

- ・本市の人口減少は進行しています。昨年の出生数も150名前後。人口推計で言うと43%減していく中で、熱海市で生まれ、育ち、定住、働いていくことが必要だと思っています。
- ・県立熱海高校は義務教育でなく、県立の高等学校であります。市内で唯一の高校です。建設部局の中で、通学路となりうるさくらの名所散策路が来年度卒業完成に向けて準備を進めています。
- ・家庭環境を含めた福祉分野でのサポート、卒業生の中で地元就職する子を増やしていく産業面でのサポート等、首長部局側でもすべきことは沢山ある。教育長、教育委員会の皆様とも連携しながら取り組んでいきたい。
- ・児童の発達支援を必要とする子が増えている傾向にある中で、専門的なサポート体制を作るため、福祉部門で準備をしています。
- ・教育委員会で出来ないものについては、首長部局で対応して参りますのでご協力をお願いします。

(終了 15時50分)